

「協働」が新しいまちづくりのカタチをつくりだす！

令和4年度 掛川市市民活動推進事業

報告書

令和5年6月5日

掛川市生涯学習協働推進課

目 次

令和4年度 掛川市市民活動推進事業 採択団体一覧	1
■ 活性化支援事業 活動写真	2
① 特定非営利活動法人掛川シニア交流研究会 「掛川塾の専門講座」	3～5
② 特定非営利活動法人掛川市民オーケストラ協会 「掛オケフェスタ」	6～7
③ 特定非営利活動法人とうもんの会 「やってみようSDGs」	8～11

令和4年度掛川市市民活動推進事業 採択団体一覧

	団体名	金額(円)	補助種別	事業種別	協働相手	タイトル
1	特定非営利活動法人 掛川シニア交流研究会	100,000	補助 (1/2)	活性化支援		掛川塾の専門講座
2	特定非営利活動法人 掛川市民オーケストラ 協会	100,000	補助 (1/2)	活性化支援		掛オケフェスタ
3	特定非営利活動法人 とうもんの会	50,000	補助 (1/2)	活性化支援	静岡大学地域創造学 環 掛川プロギング	やってみようSDGs
	3団体	250,000				

様式第 10 号

事業実績書

団体名	NPO法人掛川シニア交流研究会
事業名	掛川塾の専門講座
<p style="text-align: center;">事業内容 (実施内容とスケジュールを具体的に記載)</p>	<p>1 令和4年6月26日～令和5年1月22日の間、月1回日曜日の10時～15時に、「掛川塾の専門講座」を7回実施した。</p> <p>2 講座内容</p> <p>午前 掛川市等職員による講演及び地域活動団体、掛川塾OBの活動団体の講演を組み合わせた講座を実施した。</p> <p>昼休み 掛川市で活動する踊り・音楽・演劇等の団体の活動を鑑賞するとともに、活動の場を提供した。</p> <p>午後 グループ活動として、ファシリテーション技能の習得及び同技能を活用したグループ活動により、地域で活動するグループ創りを実施した。</p> <p>※10月はオープン講座として「どうする家康」をテーマにした「高天神城の攻防」の講演及び現地研修を実施したため、専門講座は休みとした。</p> <p>3 添付資料</p> <p>① 令和4年度「掛川塾」活動報告のチラシ参照</p> <p>② 卒業冊子「掛川塾」の「学びの記録」及び「掛川塾通信」参照</p> <p>(※ 実施内容のわかる資料・写真・新聞記事等を添付してください。)</p>
<p style="text-align: center;">事業成果 (事業計画に記載した目的、成果目標及び波及効果に対する達成度等)</p>	<p>1 掛川塾の専門講座を通じて、地域活性化に貢献する市民活動へのデビューのきっかけとなる「出会いの場」を提供し、人と人の出会い、情報との出会いの場を楽しく演出するとともに、人生の生きがいがいさがいさ、新しい友人や共通のテーマ・趣味を生かした仲間づくりの実践的な支援ができたと考えている。</p> <p>① 情報提供 各講座を通じて具体的で、今後の活動のコツや課題を提供できた。</p> <p>② 2組の活動団体が立ち上がった。</p>

	<p>2 添付資料（事業内容3と同じ）</p> <p>① 令和4年度「掛川塾」活動報告のチラシ参照</p> <p>② 卒業冊子「掛川塾」の「グループ活動実施報告」参照</p>
<p>事業期間</p>	<p>令和4年 6月 26日 ～ 令和5年 2月 6日</p>
<p>今後の事業展望 (反省点・改善点、短期及び中長期のビジョン、継続性・財源確保等)</p>	<p>定年が65歳となり、70歳まで働くことのできる社会となり、地域社会を支えてきた団塊の世代もますます高齢者となりつつあり、募集に苦戦することは今後も継続すると考えている。</p> <p>掛川市においても、全ての地区にまちづくり協議会が発足し、地域のことは地域で考え、地域で活動できるベースは出来たものの、地域社会を支える人材が現状減少していつている。</p> <p>今後は、若い人材を如何に地域社会の活動に取り込むか考え、様々な活動団体と、協働して地域社会の人材育成に努力していきたい。</p> <p>そのためにも、NPO法人掛川シニア交流研究会も、令和5年4月から名称をNPO法人掛川市民交流研究会と変更し、スタッフも若い人材へとシフトしつつ、若者へのアプローチを強めていきたい。講座内容も徐々に、まちづくり協議会に関わる事業の紹介等へと変更していきたい。</p>

様式第7号

収支決算書

団体名	NPO法人掛川シニア交流研究会
-----	-----------------

(収入)

区分	決算額(円)	説明
補助金	100,000	掛川市市民活動推進事業費補助金
参加料	89,500	参加費(1人1回1,500円)
自己資金	81,708	NPO法人掛川シニア交流研究会
合計	271,208	

(支出)

区分	決算額(円)	説明
報償費	10,500	3000*3、1500*1(掛川市職員を除く市民団体等の発表者等)
文具消耗品費	660	教材等
印刷製本費	49,162	チラシ 教材印刷
食糧費	89,196	講師・塾生・スタッフ等の弁当・お茶代
使用料及び貸借料	37,870	たまりーな大研修室5530*6+3130、多目的ホール1560
手数料	83,820	新聞折り込み(予算請求時は印刷製本費として計上)
合計	271,208	
(うち対象外経費)	69,298	

様式第10号

事業実績書

団 体 名	特定非営利活動法人 掛川市民オーケストラ協会
事 業 名	掛オケフェスタ
事業内容 (実施内容とスケジュールを具体的に記載)	<p>2022年7月5日～10月29日 事前準備(チラシ・プログラムの作成、合奏練習)</p> <p>2022年10月30日 午後2時開演 午後4時終演 掛川市生涯学習センター 堺武弥(指揮) 大石陽介(バリトン) 大石真喜子(ソプラノ) エグモント序曲(ベートーベン) オーボエ協奏曲(ベッリーニ) カルメンより闘牛士の歌(ビゼー) ウエストサイド物語よりクール(バーンスタイン) ジャンニススキより私のお父さん(プッチーニ) マイフェアレディより踊り明かそう(ロウ) 西部の娘よりあなたが黙っていても(プッチーニ) オペラ座の怪人より(ロイドウェバー) メリーウィドウより唇は黙して(レハール) サウンドオブミュージックメドレー(ロジャース)</p>
事業成果 (事業計画に記載した目的、成果目標及び波及効果に対する達成度等)	<p>今回のゴール: 500名 実際の集客数: 235名 達成度: 47% 地域への波及効果: 市民ニーズを汲み取った演奏会を続け、客層を厚くしていくことにより、地方にもオーケストラ演奏に触れる場を提供することができています。</p>
事業期間	2022年7月5日～2022年11月21日
今後の事業展望 (反省点・改善点、短期及び中長期のビジョン、継続性・財源確保等)	<p>集客数が伸びなかった点については、現在分析していますが、演奏会内容が確定した時期が遅く、事前広報が十分でなかった影響があると考えています。</p> <p>短期的には、定期演奏会が終わった7月からの準備ではなく、3月頃から準備するよう、来年は改善していきたいと考えています。長期的には、毎年ゼロから企画するのではなく、スムーズに動けるようなスキーム・マニュアルを整備すべきと考えています。</p> <p>来年以降も継続していく予定ですが、今年も含め、毎年収支が厳しく、収支改善が喫緊の課題です。</p> <p>財源確保の手段としては、生涯学習推進課様にもご尽力いただいておりますが、WEB等による活動広報を推進し、新規入団者・演奏会への来場者・協力会員を増やしていくことも考えております。最後の手段としては、有料公演として来場者からチケット代金をいただく方法があります。公演内容をより充実させて、有料にしてもたくさんのお客様に来場いただけるような演奏会にしていくことも視野に入れていきます。</p>

様式第7号

収支決算書

団体名：特定非営利法人掛川市民オーケストラ協会

(収入)

区分	決算額 (円)	説明
チケット売り上げ	¥0	入場無料
参加料	¥823,734	団員より徴収
補助金	¥100,000	
合計	¥923,734	

(支出)

区分	決算額 (円)	説明、領収書番号
報償費	¥550,000	指揮者 ①②③④
報償費	¥25,000	賛助出演者 ⑤⑥⑦
報償費	¥100,000	ソリスト ⑧⑨
文具消耗品費	¥550	事務用品 ⑩
文具消耗品費	¥2,178	マスク、事務用品 ⑪
文具消耗品費	¥10,054	衣装代 ⑫
印刷製本費	¥5,680	チラシ印刷代⑬
印刷製本費	¥6,920	プログラム印刷 300 部⑭
印刷製本費	¥4,020	プログラム追加印刷 100 部⑮
印刷製本費	¥300	アンケート印刷⑯
印刷製本費	¥275	楽譜印刷、コピー⑰
印刷製本費	¥750	楽譜コピー⑱
印刷製本費	¥2,053	楽譜コピー、印刷⑲
食糧費	¥5,429	指揮者ソリスト賛助出演者⑳
通信運搬費	¥4,116	協力会員案内郵送㉑
通信運搬費	¥3,270	後援申請郵送㉒
使用料及び賃借料	¥51,720	練習会場使用料㉓
使用料及び賃借料	¥108,765	本番会場使用料㉔
手数料	¥38,104	シルバー人材㉕
手数料	¥4,000	受付手伝い⑤⑥
手数料	¥550	振込手数料㉖
合計	¥923,734	
(うち対象外経費)	¥723,734	

様式第 10 号

事業実績書

団体名	NPO法人とうもんの会
事業名	やってみようSDGs
<p style="text-align: center;">事業内容 (実施内容とスケジュール を具体的に記載)</p>	<p>7/31 田んぼの生き物調査と環境講座 46名参加 講師 太田峰夫先生 9:00 オリエンテーション 9:10 田んぼの排水路で生き物捕獲 10:30 生き物の名前調べ・調査票に記入 11:00～12:00 環境講座</p>
	<p>8/11 歴史講座 8名参加 「農業の歴史にみる循環型生活体系」 講師 森下春美先生 9:30～ 計画では「竹と人の暮らし」としていたが、竹に 限定せず、大人向けに人の暮らし（生活）に視点 をあてた歴史講座を行った。</p>
	<p>8/20 竹灯りづくり講座 8名参加 13:30～15:00 放置竹林の竹を使って、竹灯りを作り LED電球でおしゃれな空間を演出 講師 たねあかり 塚本隆男氏</p>
	<p>9/11 プロギングと田んぼの生き物調査 8名参加 8:00～9:30 掛川プロギングの皆さんの指導で楽しくゴミ拾い をした。プラゴミが川や農業用水に落ちて海洋プ ラスチックになるのを防ぎ、農作業の危険を回避 できるなどのお話を聞いた。ゴミ18kg回収。 9:30～11:30 田んぼの生き物調査。時期が違くと生息している 生き物が違うことや、同じ生き物でも成長過程が 違うことを勉強した。 講師 太田峰夫先生</p>
	<p>11/12 行事食講座と料理講座 15名参加 16:00～17:00 行事食講座「行事食と旬」 講師 名倉光子 17:00～18:00 料理講座「えびす講の行事食」 桜ご飯・紅白なます・運のつく野菜の煮物</p>

	<p>鯛の塩焼き・お吸い物 18:00 試食 2/16 とうもんの活動とSDGs 生産者15名会員10名参加 講師 大正大学地域創造学部助教授 天野 浩史氏 19:00~20:30 直売所の意味フードマイレージ・農地の保全 障害者とのコラボ・男子中学生の茶娘体験 農業体験の意義・地域の自然や歴史を紹介する意義などを通じて、自分たちの活動が何につながっていくのかを整理し可視化することで社会にNPOの価値を示したい。</p> <p>(※ 実施内容のわかる資料・写真・新聞記事等を添付してください。)</p>
<p>事業成果 (事業計画に記載した目的、成果目標及び波及効果に対する達成度等)</p>	<p>SDGsの4つの目標に対し、6つの講座・体験を実施した。「海と陸の豊かさ」に関し、とうもんの自然を通じて課題と解決について学んだ。ゴミを拾うことで海洋プラスチックを減らし、田んぼの生態系を知ること農地の役割を学び海への環境を守ることに繋がった。昔の農業を知ること竹やわらを活かす暮らしを学び、放置竹林の竹を使っての竹灯りづくりを通して啓蒙活動ができた。とうもんの会の活動は作る責任や使う責任、差別のない社会、学びの場の提供等、多岐にわたると市民が知る機会となった。講師やプロギングの皆さん、大学生を巻き込んだの活動が出来て、パートナーシップでの目標達成に大きな力となった。</p>
<p>事業期間</p>	<p>令和4年7月4日 ~令和5年3月13日</p>
<p>今後の事業展望 (反省点・改善点、短期及び中長期のビジョン、継続性・財源確保等)</p>	<p>反省点：今年度、夏場のコロナ感染を受け子供向けの計画を急遽大人向けの講座に変更したこともあり、今後は講座の内容を精査して開催を考えたい。今までの活動では、活動の意味が伝えきれていなかった。 改善点：意味を伝える。講座・体験の目的や意味を明記して、SDGsの啓発に努める。 会員の意識向上のための研究会や、出荷者に向けての有機栽培の研修会の開催等を通じて、活動の意味を伝えていく。 ビジョン：2027年には、20周年の集大成として、とうもんの活動がSDGsの意味ある活動をしていることを伝えられるパネルを作る。</p>

<p>財源確保：参加料の適正化と内容のレベルアップも考えると、会員のスキルアップのための研修などが必要になる。しかしながら、資金確保は厳しくなる一方でこのままでは、NPOの存続さえ難しくなってくる。自分たちが活動する意義を社会に認めてもらうためにSDGsがある。企業さんとのコラボもありではないかと思うのだが、企業もまた、厳しくなっているのは事実。そこを補助してくれるのが公共の役割と思う</p>
--

様式第7号

収支決算書

団体名	NPO法人とうもんの会
-----	-------------

(収入)

区分	決算額(円)	説明
受講料	47,000	7/31@100x46、8/11@500x8、8/20@2200x8、9/11@100x8 11/12@500x15、2/16@500x25
会より	12,176	
補助金	50,000	市より
合計	109,176	

(支出)

区分	決算額(円)	説明
報償費	49,500	49,500x1(2月)
印刷製本費	25,000	講座資料代 10000x2(7・8月)・5000x1(9月)
食糧費	8,826	参加者飲料8/11@100x9、9/11@100x11、行事食材料6,826
文具消耗品費	17,600	竹灯りWS材料
使用料及び貸借料	8,250	会場使用料1650x5(7・8・8・11・2月)
合計	109,176	
(うち対象外経費)	8,826	



「茶のみやきんじろう」

©掛川市

○この補助金に関するお問い合わせ、申し込み先は

〒436-8650

掛川市長谷一丁目1番地の1

掛川市役所 協働環境部 生涯学習協働推進課 協働推進係

TEL : 0537-21-1129

FAX : 0537-21-1165

E-mail : kyodo@city.kakegawa.shizuoka.jp



掛川市まちづくり協働センター

検索

市HP



まちづくり情報を発信中!